

第1回 糸魚川市教育委員会定例会会議録

- 1 日時 令和7年1月23日(木) 10時00分から
- 2 会場 糸魚川市役所 201・202会議室
- 3 出席委員 教 育 長 齋藤 修一
教育長職務代理 谷口 一之
委 員 齋藤 里沙
委 員 楠 愛
委 員 秋山 伸宏
- 4 委員以外の出席者
教育次長 山本喜八郎
こども課 課 長 室橋 淳次 課長補佐 田村 公一
管理係長 田代 正人
こども教育課 課 長 古川 勝哉 参 事 小川 豊雄
課長補佐 関澤 仁 係 長 植木 靖英
生涯学習課 課 長 磯貝 恭子 課長補佐 本間 正之
文化振興課 課 長 嵐口 守 課長補佐 榊 正喜
博物館 館 長 竹之内 耕
書記 こども課主査 上原 奈穂
- 5 報 告
報告第 1号 感染者の確認に伴う休校等について
報告第 2号 糸魚川市立学校の学校薬剤師の委嘱の一部変更について
報告第 3号 各課・機関所管事項について
- 6 付議案件
議案第 1号 専決処分の報告について
糸魚川市教育委員会職員の人事異動について
議案第 2号 糸魚川市文化財の指定解除及び文化財の保存活用に関し必要な事項
について
- 7 会議録署名委員の指名 1番 谷口委員

教育長	令和7年第1回教育委員会定例会を開会する。 報告第1号感染者の確認に伴う休校等について、事務局の説明を 求める。
こども教育課長	(資料に基づき説明)
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
委員	(「なし」の声あり。)
教育長	質疑なしと認め、報告第2号糸魚川市立学校薬剤師の委嘱の一部 変更について、事務局の説明を求める。
こども教育課長補佐	(資料に基づき説明)
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
委員	(「なし」の声あり。)
教育長	質疑なしと認め、報告第3号各課・機関所管事項について、事務 局の説明を求める。
	こども課 所管事項報告 こども教育課 所管事項報告 生涯学習課 所管事項報告 文化振興課 所管事項報告 図書館 所管事項報告 博物館 所管事項報告 市民会館 所管事項報告
教育長	今ほどの説明について、ご質疑はないか。
こども教育課参事	12月定例会時に質問いただいた内容について報告する。中学校3 年生男子の不登校生徒数が10人から9人に減少していたが、これは 学校に来ることができなくなっている理由が、病気や体調不良によ る理由となり、そこでの人数計上に切り替わったことによるもの。 なお、今月10人に戻っているのは新たに1人追加になったことによ るもの。
齊藤委員	図書館あり方検討委員会ユニバーサルデザイン部会で出された具 体的なアイデアを聞かせてもらいたい。また、それを受けて、考 えていることがあれば聞かせてもらいたい。
生涯学習課長	地域生活支援センターの職員から障害についての話を最初に聞いた。 障害には目に見える障害だけではなくて、内部障害や精神障害、 発達障害などの見た目には分からない障害があり、そういった観点 から施設としてどのような視点が必要かを聞いた。市民図書館につ いてはそもそも建物が古くて、ユニバーサルどころかバリアフリー という考え方が施設に備わっていない部分もある。例えば、洋式ト

	イレはあるが、照明の位置が悪いのではないか、スロープがあってもその位置が不適切ではないかといった具体的な意見をいただいた。今後どういう形で図書館を整備していくかは未定だが、そういうときのためのいろいろな材料をお出しいただいた。
秋山委員	教育懇談会のテーマが部活動の地域移行のあり方についてだが、どのような方が参加するのか。
こども教育課参事	参加者は従来どおり学校関係者、保護者に加えて、地域の主任児童委員や公民館職員、部活動指導員の方から申し込みをもらっている。ほかに教育委員、庁内委員、市教委を入れて、最終的に90人ほどの参加になる。幼稚園、保育園の関係者にあまり関係のない内容なので、その辺りの参加が少ない気がするが、様々な立場の方からまんべんなく参加してもらっている。
秋山委員	部活動指導員や保護者の受け止めが気になる。その意見を反映できれば、共通理解し合えて、方向性が見えると思う。まだ可能であれば調整をしてもらいたい。
齊藤委員	根知小学校で4人のワーケーションの受け入れがあるが、今までに来た児童か、新規の児童か教えてもらいたい。
こども教育課係長	根知小学校は1学期に3人受け入れをした。申込みは4人だったが、学校行事で来られなかった児童がいて、その子を含めて2学期、3学期に受け入れる。今年は青海小学校でも1学期だけ実施したが、来年度は1年間を通して実施をする予定となっている。来年度は2校で実施をしたい。
教育長	学期ごとに児童が入れ替わるのではなく、年間を通して受け入れる。
こども教育課係長	四季を感じていただく。中には4年度、5年度と同じ児童が2か年にわたって参加した例もある。
秋山委員	前回の会議で不登校の具体的な内容については詳しく捉えられておらず、教育長から内容をしっかりと把握して踏み込んだ形で細かな部分の情報収集に努力していくといった話があったが、その後それを受けて具体的なアイデアや次年度に向けての策があったか聞きたい。
こども教育課参事	子どもたちの具体的な状況は担当指導主事が学校から聞き取った内容を報告として上げている。次年度以降は、子どもたちの様子をよく見ることをより一層強化したい。学校でスクールカウンセラー等の対応をより強化していく。
秋山委員	詳細については指導主事の段階でしっかりと把握しているのか。
こども教育課参事	ある程度どういう状況かの話は聞いている。
秋山委員	生徒指導支援員として関わってきた。生徒指導関係の指導主事は大変多様な業務を担っていて、適応障害の生徒の対応や校内対応なども担っている。不登校に関する情報は集まっているが、それをさ

らに上に報告することが難しいところもあるのではないかと。いじめについては学校から詳細な報告書等が上がってくるが、不登校の生徒の状況については指導主事が検討しながら報告書を作成する。実態の把握、その内容確認、保護者との関係等も作り上げていくのが非常に大変ではないか。指導主事が聞き取りした内容を指導主事自身がまとめて報告書を作ることが非常に大変だと思う。各学校からの細かな部分の実態把握の情報収集が容易にできるようなシステムを作ることによって迅速に初期対応ができるのではないかと。それを受けて、今度は行政が受け皿としてそれをどうするかという次のステップにつながるのではないかと。問題解決の資料として十分に役立つものにはできないか。

こども教育課長

課内で検討する。この毎年増え続ける状況に苦慮している。いただいた意見、アイデアを検討し、早い段階で示し、来年度から活用できるようにしたい。

秋山委員

働き方改革等もあるが、喫緊の課題だと考える。早急に検討してもらいたい。

教育長

とにかく細かな実態がどうなのか、どういう状況なのか、それに対してどういう働きかけを現在しているのかという情報が欲しい。校内別室対応や適応指導教室、あるいは家庭訪問をしている生徒の情報については各学校できちんと記録を残しているが、それ以外の情報が集まって来ない子どもたちの状況はなかなか知り得ない。学校にはある程度の記録はあると思うが、それが教育委員会にどのように上がってきて、それを教育委員会としてどのように把握して、教育委員会としてできる対応はどのような内容なのか明瞭に見えてくると手立てや支援の方策等の関わり方がもう少し強化できるのではないかと。その辺りは作業的な部分も絡むので、どういうステップを踏んで、どういうシステムを踏めば作業手順が多くかからずに、整理された情報をみんなで共有できるのか。そしてその後はどういった形で対応していくのかといったチーム作成も含めて、みんなで考える。考える機会を作るためにも情報がないとアクションが起こせない。秋山委員の提言を生かして、なかなか手の届かない子どもたちへのアクションをどうしていくか、そのための情報の共有化、そしてそれを行動、連携につなげていく方向性を作り上げていきたい。

谷口委員

推しグルメの発表があったり、教育月報に糸高の自習室の掲載があったり、高校の活躍の話があった。今までは地域に発信したり、高校生が外に出たりする活動があまりなかったが、目に見える形で出てきて素晴らしい。子どもたちも自分たちの活動が紹介されることは嬉しいと思う。御風カルタも一生懸命調べて学習した成果だと思う。ぜひこういった活動は続けてもらいたいし、まだまだ子ども

たちがやりたいことはたくさんあると思う。地域の課題や子どもが興味関心ある部分を探究活動して外に発信したり、いろいろなイベントに出たり、高校生の活躍する場面が見られることは嬉しいので、これからもつなげてもらいたい。コーディネーターが頑張っていて活動してくれている。3年目になるのでメンバーは代わるかもしれないが、活動はぜひ継続してもらいたい。

こども課管理係長

カルタの発表会は市教委も参加させてもらって、新聞記事にもなった。12月から1月中旬にかけて生徒が図書館だったり、市のホームページを見たりして学習した成果であり、実際に現地に行って史跡を見てきた生徒もいたようで非常に勉強したと思う。これは授業ではなく、先生が仕掛けた取組で、この取組自体が学校側のオリジナル探究だと言える。こういった取組はこれまでなかったが、他校にも展開していくといい。おそらく次回の教育月報で白嶺高校の防災フォーラムの掲載があると思うので、また紹介させてもらう。

文化振興課長

文化振興課も御風カルタの発表会に行き、さっそくフェイスブックに掲載した。高校生がこういった活動をしていることを多くの方に知ってもらいたいし、知らせていきたい。所管の施設で実物を展示したり、データで紹介したりできないか検討している。どんどん次へつながっていったらいい。

教育長

子どもたちは小学校のときに総合的な学習の時間やジオパーク学習等でこれに似たような活動をずいぶん経験している。その一端がジオパーク学習交流会で、劇をしたり、ポスターを作ったり、あるいはクイズ形式にしたり、いろいろな方法で取り組んだ。それが中学校につながって、高等学校にもつながってきた。ふるさと学習、地域学習の一貫的な流れ、小中学校の積み重ねが、高等学校においてこれまでの経験が生きた形で発展した姿を見取れた。各教科とか今までの経験、既習経験が存分に発揮されて、1枚1枚のカルタとなった。調べ方や学習の仕方においても、課題を見つけて、それを解決するために情報収集をして、それを整理して意見交換をしながらひとつの形にして、発信をしていく。まさに探究のプロセスをしっかり踏んだ探究学習の成果ではないか。そして、それを発信することで、その反応が生徒自身にも返ってくる。そうして自己肯定感が高まり、また新しいチャレンジをしていこうという好循環が生まれる。学びのスパイラルを通じて自分自身が高まっていく活動の姿に受け止められる。一貫教育のひとつの軸にジオパーク学習があって、こういった発展性があるって、成長段階、発達段階に応じた学びの進化がある。そこはもっともっと応援していく必要がある気がしてならない。学びは途切れることなく、つながっていく、必ず生きてくることを小学校、中学校の先生にも伝えなければいけない大事な内容だと思う。小学校でやっていた取組が高等学校に行ってもずっと

つながっていて、子どもの成長とともに学びの楽しさ、嬉しさ、自己達成感、満足感を味わいながら、子どもたちは自立に向かっていくといったスタイルをみんなで共有できる大きな教材だと私は受け止めた。

楠委員

高校魅力化オリジナル探究でボランティア講座があったが、参加者が2人で非常にもったいないと感じたが、これは3高校に向けて発信されたものか。

こども課管理係長

12月に企画して、3高校全てに周知をしたが、参加者がいなかった。興味がある生徒がいて、この日であれば参加ができるということで、日程を変更して今回実施をした。この2人の生徒はデザインに興味を持っていて、3月に行われる「雁木通りのひな遊び」のデジタルポスターを作成して、駅のデジタルサイネージに掲載する。

楠委員

ボランティアと言葉だけ聞くと敬遠するかもしれないが、興味のあることが関係してくると参加するのであれば、いろんな観点から企画をすれば、高校生はいろんな興味関心を持っていると思うので、どこかで結びつくのではないか。そこから市民とつながっていくことは、市民としてもとても嬉しいし、こういう活動がどんどん広がっていけばいいと期待している。

教育長

関連して青春サポーターは当市独自の取組で、取り組み始めて数年が経過したが、現在はどのような状況か。

生涯学習課長

毎月青春サポーターのチラシを作って、こういう手伝いをしてもらいたいと周知をすると参加してくれる生徒がいる。参加してくれた生徒には学校を通じて活動証明書を渡すので学校の先生もそういう活動に参加していることを把握できるし、生徒も励みになると思う。それでまた募集があったから参加しようといった流れができると考えている。将来的には自立した組織になって高校生が企画運営する形になればいいと思うが、今のところは市が情報提供と集約をしている。これからも継続していきたい。

楠委員

いい循環が見えてきて、とてもいい取組だと思う。もう1点確認をしたい。秋山委員も言われたが、次年度に向けてスクールカウンセラーやソーシャルワーカーを増員したり、子どもたちと医療をつなげたり、家庭内の問題を福祉につなげたり、そういった体制作りが必要ではないか。それを可能にするには人がどうしても必要だと思うが、人員面をどのように考えているか。

こども教育課長

不登校に関わる相談件数は児童生徒、保護者を合わせると年間3,000件以上ある。今年度は相談員を1人増員したが、相談件数も多く、来年度も増員の予算要望をしている。ただ、予算も全体の兼ね合いがあるので現状では分からない。現在はできるだけ関係機関と連携をとったり、学校に相談に行く回数を増やしたりと、現在の人員の中でやりくりをしてもらっている。

楠委員

教育相談員は子どもたちの相談を受けたり、親の相談を受けたり、関係機関との関わりなど、どのくらいの範囲の仕事を担当しているのか。適切な関係機関へつながっていているのか気になる。教育相談員も個人の特性、得意としているところ、専門性があると思う。子どもたちと話すのが得意な人がいれば、関係機関につなげることが得意な人もいるかもしれない。これだけの件数があれば、そういった役割を明確にして体制を作っていく必要があるのではないかと。

こども教育課長

緊急を要するものは、こども教育課の指導主事が窓口になって迅速に対応している。得意分野があるのではないかとのことだが、月に1回相談員が集まり、ケース会議をやっている。その中で、この子は医療につなげた方がいいとか、児童相談所につなげなければいけないとか、それぞれの得意分野において意見を出しながら、どのように対応していけばいいか検討する機会を設けている。

楠委員

件数が件数なので心配している。つなげる機関がある場合は確実につなげてもらいたいし、うまく回っていくような体制づくりをお願いしたい。

秋山委員

件数に驚いた。主として医療機関につなげている役割の方は1人だと思う。1人で情報を集めて、関係者を集めてといったことをやっているのだから、かなりのオーバーワークだと思う。増員をしていかなないと追いつかない。予算を確保して、検討していくことで、1人でも不登校の児童が減る可能性、助かる家族がいるのではないかと。

楠委員

月1回の会議は市として全体で会議を開催しているのか。

こども教育課長

8人の教育相談員とソーシャルワーカー等が集まって会議をしている。まずは相談員の中で話をして、それぞれの担当が必要に応じて関係機関につないでいる。

楠委員

学区ごとで月1回ケース会議を開催して、それを全体会に持っていくような形にはできないか。それだけまた人員が必要になるかもしれないが、できるだけケース会議の頻度を増やしたり、チームで考えたりできるような機会を増やせられないか。

こども教育課長

1人で複数校を受け持っているのだから、その校区に1人2人しかいない。次回の会議の際にどのような方法がいいか、会の持ち方自体も検討してもらって、相談員がやりやすいように、また1人でも多くの子どもを救えるような方法について検討していきたい。

教育長

今までの取組を振り返り、新年度体制の準備に入る時期になっている。議題に入れて、内部で意見をもらって、見直し改善が必要であれば意思統一も含めてやってもらいたい。

ほかにご質疑はないか。

委員

(「なし」の声あり。)

教育長

質疑なしと認め、付議案件に入る。

議案第1号専決処分の報告について、糸魚川市教育委員会職員の内

教育次長
教育長
委員
教育長

人事異動について、事務局の説明を求める。
(資料に基づき説明)
今ほどの説明について、ご質疑はないか。
(「なし」の声あり。)
ご質疑なしと認め、採決に入る。
議案第1号について、ご異議はないか。
(「異議なし」の声あり。)
異議なしと認め、承認する。
原案のとおり承認

教育長

議案第2号糸魚川市文化財の指定解除及び文化財の保存活用に関
し必要な事項について、事務局の説明を求める。
(資料に基づき説明)
今ほどの説明について、ご質疑はないか。
(「なし」の声あり。)
ご質疑なしと認め、採決に入る。
議案第2号について、ご異議はないか。
(「異議なし」の声あり。)
異議なしと認め、承認する。
原案のとおり承認

文化振興課長
教育長
委員
教育長
委員

次回教育委員会定例会開催
令和7年2月14日(金) 15時から
その他 特になし

教育長

以上で、令和7年第1回教育委員会定例会を閉会する。

11:15 終了